

長田下地域 振興会だより 第21号

2014年(平成26年)12月20日発行

・今年も後わずかになりましたが、皆さんお元気でしょうか。この夏には、天候異変で大きな災害もあり、私たちの地域でも大きな行事の変更もありました。この号では、この夏からの行事を振り返ってみました。来年は良い年でありますように！

7/20(日) 夏の風物詩『おかげんさん』(雨天順延)

おかげんさんを無事終えた数日後、地域のHさんに出会った時のことです。Hさんから「おかげんさんではありがとうございます。しっかり見させてもらいました。」と声をかけられました。「いやいや、Hさんみたいに農道まで出てきてくれて、応援してくれる人がいるのが励みですよ。」「そうはいつでも、提灯をかついだり、歩いたりするのは大変じゃけんのう。せめて近くで見せてもらわと。」

わずかな会話ですが、実施してよかったということを実感しました。正直なところ提灯行列への参加はよる年の波には勝てずまた雨天順延もあり、今年は少なくなりました。それでも、こうして応援している人たちがいることは、やはりつないでいかなければならんと、改めて思いました。

(担当B.T)



8/3(日) いかだ遊船～夏の思い出

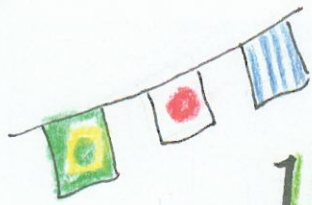
三篠川長谷尻付近の河川で、今年も恒例の**いかだ遊船行事**が行われました。今年はいにくの雨模様となり、子ども達も大人も楽しみにしていた乗船はできませんでしたが、集まった子ども会の保護者9人、子ども12人と明神クラブ会員9人は、中長田集会所で、盆踊りのポスターを作成したり、リラックス運動を行って楽しい時間を過ごしました。



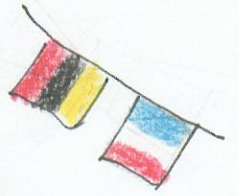
昼は、自分達で支度をしたカレーを食べました。

8/14(木) 盆踊り

今年の盆踊り大会は、直前の雷雨に見舞われ、やむを得ず踊りは取り止めとなりました。しかしながら、懇親会には沢山の方達に参加して頂き、来年に繋がる交流ができたとの声が聞かれました。21時頃には、一旦雨も止んだため、恒例の花火も上がり、地域の皆様にも楽しんで頂けたのではないのでしょうか。(担当K.M)



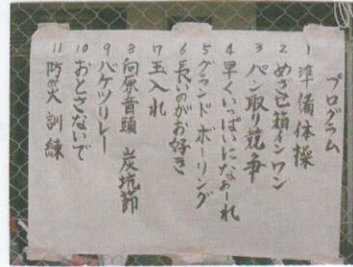
第11回ふれあい



10/12



運動会



悪天候のため、幾つかの夏のイベントが中止され、今回も天候が心配されましたが、当日は暑くも寒くもない運動会日和でした。約140名の地域の方が参加され、賑やかに開催されました。

箱めがけて打つグランドゴルフは、ほとんどやったことのない私には難しかったですが、先輩方は上手に入れておられました。

安芸高田消防署の方をお迎えし、防災訓練を兼ねてバケツリレー・担架の作り方・土のう作りを学びました。競技としてもバケツリレー・担架を作ってボールを運ぶ種目が加わっていました。

スムーズに競技を終えて、おいしいうどんを頂き、お腹と心が満たされました。地域のつながりを感じる秋の日となりました。

(T.K)



「下長田地区の文化財保護と伝承」について考える⑫

今回は、長田7区下、谷川さん宅の裏山の林の中、「ひしね神さん」から数m登ったところにある、神社跡をたずねることにしました。

調べるきっかけは、60年以上前、故谷川孝さんのお母さんが、「わたしの家の裏手には、昔、大きな神社があったんよ。今は、中組の長田神社の方へ移って、大きな石垣だけが残っとるよ」と言われたことが耳に残っていたからです。

現地に行ってみると、わたしたちが「松尾神社」と仮名で呼んでいた神社跡がありました。上・中・下段と、段の屋敷跡があり、井戸か洗い場のような所も残っていました。広い所は200㎡以上もあり、相当大きな神社が建っていたと思われます。見事に築かれた高い石垣が残り、往時を偲ばせてくれます。

資料が見つからないので、地域の古老から何か手掛かりがつかめぬかと、松田ハツコさん(94才)を訪ねました。松田さんのお話では、父親から聞いた話として「わたしやあ知りませんが、父の話では、長いきざはし(階段)があって、紋付を着て、三方を持った人が登って祭事をしていたそうですよ」とのことでした。このことから、松田さんの幼少時代には、神社は移築されていたけれど、廃社するまでは、厳かな神事が行われていたことが分かります。

なお、神社の向かいに広がる田んぼ一帯を『鳥居原(とりいばら)』といいます。「岡山神社」の参道に、大きな鳥居が建っていたのかなと想像しました。



「無格社(地元の小さな社)」です。「岡山神社」は、諸社の中の「村社」に当たります。長田村には、そのほかに、無格社の地元の社が4つあったと伝わっています。

当時、明治政府により進められていた町村合併と並行して、小さな社や無格社の整理を進め、1906年(明治39年)、「神社合祀(ごうし)」の勅令が出され、地域の生活や信仰に深く根ざしていた村内の鎮守の社や産土社などを一括整理し、「一村一社」に統合したのです。その際、政府の命令で、岡山神社は取り壊され、長田中央部の現在地に、統合した長田八幡神社が建てられたのです。(担当F.T)

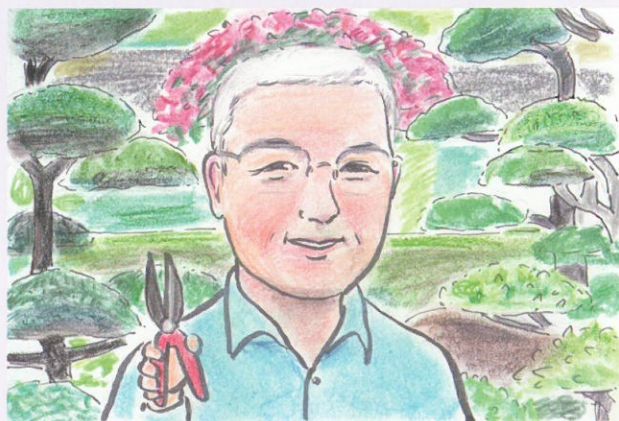
詳しいことを知りたいと、町内の民俗学の研究者、柿野上明喜さんを訪ね、いろいろと教えていただきました。その一部を紹介しますと、この神社の名前は、「岡山神社」と言い、天正9年(1581年)内藤河内守が建立したと伝えられています。昔の村社だそうです。絵図などの資料は見つからないそうです。

明治政府が1871年、神社政策として、「神仏分離と神社の社格」を制定し、3段階の格付けをしていたようで、1つは「官社(国)」、2つめは「諸社(地方の社)〔府県社、郷社、村社〕」、3つめは

下長田人物伝（6）

古田さん、手造りの庭拝見

以前、古田芙美夫さん（7区上）の家に行ったとき、なんときれいにしている家だろうと思っていました。今度、改めて庭を見せてもらいびっくりしました。本当にきれいなのです。どの樹木も形よく剪定され、その木々の間に大小さまざまな石が置かれ、見事な庭になっています。



若いころから木の剪定が好きだったこと。大型トラックの運転はもちろん、ユンボなどのほとんどの機械を動かせること。だから大きな石も一人で積み込み、設置もほとんど一人でやったとのこと。それでも、なかなかできることではありませんね！

昔からある庭を広げて手直したのだらうと思っていたのですが、この庭は初めからすべて、古田さんが造ったのだそうです。耕地整理をやった時（17から18年前）家の前にあった田を堀上げ、真砂土を入れ整地したとのことでした。4トントラックで40台分以上の真砂土を志和から運んだそうです。

このような庭を造ろうという設計図なども考えていなかった。また、木や石も初めから全部準備したのではなかった。自分で探し手に入った木を植え、石を設置してだんだん出来上がっていったのだそうです。今の形になるまでには20年ぐらいかかったということです。

奥さんにお聞きすると、主人は昔気質で、まっすぐでとても几帳面とのこと。この庭を見るとそれがよくわかります。裏の垣根もまっすぐです。中庭もこだわりの岩松が植えられ落ち着いた風情です。隅々まで行き届いた本当にきれいな庭です。（担当Y.H）

